

ため池改修工

(規格値妥当性確認結果)

検討項目①：出来形管理（面管理）の規格値の検討

（1）検討結果を踏まえた規格値

算出した規格値を用いて出来形評価を実施した結果、天端及び法面ともに規格値を満たすことが確認できたことから、出来形管理における面管理の規格値を下表のとおり設定した。

工種	計測箇所	測定項目	規格値 (平均値)	規格値 (個々の計測値)
堤体工	天端	標高較差	± 100 mm	± 150 mm
	法面	標高較差	- 110 mm	- 160 mm

（2）規格値の検証

ICT建機による施工（MC、MG）をされた鷺尾池で、上記の規格値が妥当性を検証した。

検証は、①制波工基礎前（表土はぎ取りの高さ）の法面、②堤体完成後の天端と前法小段及び③制波工完成後の上下法面（張ブロック箇所除く）を対象として実施した。

測定項目			規格値	制波工基礎前法面		測定項目				規格値	天端	小段	測定項目				規格値	張ブロック上段	張ブロック下段
法面 標高較差	平均値	-110mm	17.3mm	法面 標高較差	平均値	±100mm	18.9mm	16.6mm	法面 標高較差	平均値	-110mm	4.3mm	147.9mm						
	最大値(差)	-160mm	1102mm		最大値(差)	±150mm	98mm	60mm		最大値(差)	-160mm	63mm	1095mm						
	最小値(差)	-160mm	-134mm		最小値(差)	±150mm	-91mm	-43mm		最小値(差)	-160mm	-47mm	-40mm						
	データ数	1点以上/m ²	850		データ数	1点以上/m ²	719	343		データ数	1点以上/m ²	400	452						
	評価面積		705.7.6m ²		評価面積		551.2m ²	192.8m ²		評価面積		241.1m ²	330.5m ²						
	棄却点数	0.3%以内	0		棄却点数	0.3%以内	0	0		棄却点数	0.3%以内	0	0						

■：規格値内、■：規格値外

■：規格値内、■：規格値外

■：規格値内、■：規格値外

①制波工基礎前の法面

②堤体完成後の天端と前法小段

③制波工完成後の上下法面
(張ブロック箇所除く)

検討項目①：出来形管理（面管理）の規格値の検討

（3）妥当性の検証を踏まえたガイドラインへの記載内容

（2）の妥当性検証の結果より、文献を基に算出した規格値が妥当であることが確認できた。よって、改定案は以下のとおり（抜粋）とする。

（現行）

記載なし

（改定案）

情報化施工技術の活用ガイドライン 出来形管理編 第6章 ため池改修工

2 面管理の場合

測定項目、規格値及び測定基準は表6-4のとおりとする。

なお、法面の小段部に側溝工等の構造物が設置されるなど土工面が露出していない場合、小段部の出来形管理は、小段部に設置する工種の出来形管理基準及び規格値によることができる。

表6-4 出来形管理基準

工種	測定箇所	測定項目	規格値 (mm)		測定基準
			平均値	個々の規格値	
堤体工	天端	標高較差	±100	±150	出来形評価メッシュは 1点/m ² （平面投影面積 当たり）以上※1
	法面（小段含む）	標高較差	-110	-160	

※1：出来形評価メッシュは1m²（1m×1m）を基本とするが、施工幅が1m未満の場合等、1m²メッシュによる出来形管理が適さない場合は、出来形評価メッシュを0.25m²（0.5m×0.5m）以下とする。この場合、測定基準を「出来形評価メッシュは1メッシュ（平面投影面積）当たり1点以上」とする。また、必要に応じて断面管理の適用を検討する。